



介護老人保健施設 アゼリア

牽制していた 「オムツ交換数を減らす」を やってみた！

～オムツ交換回数の削減で得られた効果や結果～

医療法人社団 珠泉会
介護老人保健施設 アゼリア
介護福祉士 渡邊 徹
共著者 介護福祉士 田口 真澄

ユニ・チャーム株式会社
21-レRH第13-H045-6

東京都昭島市 介護老人保健施設アゼリア

一般棟 106床 専門棟 40床

サテライト 28床 計 174床



目的

- 1) 介護職員の業務負担の軽減を図る。
 - ・業務スケジュールの調整を行い、人員配置を見直し。
 - ・時間外業務の削減。
 - ・アンケートによる効果測定。
 - ・オムツ、パット使用量測定。

- 2) ご利用者のQOLの向上につなげる。
 - ・皮膚への影響や尿路感染症の推移。
 - ・不要な中途覚醒を予防し良眠を確保。
 - ・在宅復帰者への排泄に関する取り組み内容を検討。

方法

【使用する排泄用具の設定】

- ・日中は「外モレ安心さらさらパッド男女兼用」を使用（吸収量は500cc）
- ・夜間のご利用者の尿量に合わせて以下の2種類を選択
 - 「一晩中安心さらさらパッド」を使用（吸収量900cc）
 - 「長時間安心さらさらパッド」を使用（吸収量600cc）



交換回数の変更

日中：3回（9時・13時・16時）

→2回（9時と14時）

夜間：4回（19時・23時・1時・4時）

→2回（19時・4時）

尿量の多い方は、→3回（19時・23時・4時）

※昼夜オムツご利用者で7回→4回に減少する事でパットの
使用量は1日3回分減少。10日で30枚減少。

運用効果① 臀部褥瘡・尿路感染症の前年比

【臀部褥瘡件数】

平成29年度	10件
平成30年度	9件

【尿路感染症件数】

平成29年度	20件
平成30年度	14件

どちらも増加は無く減少した。

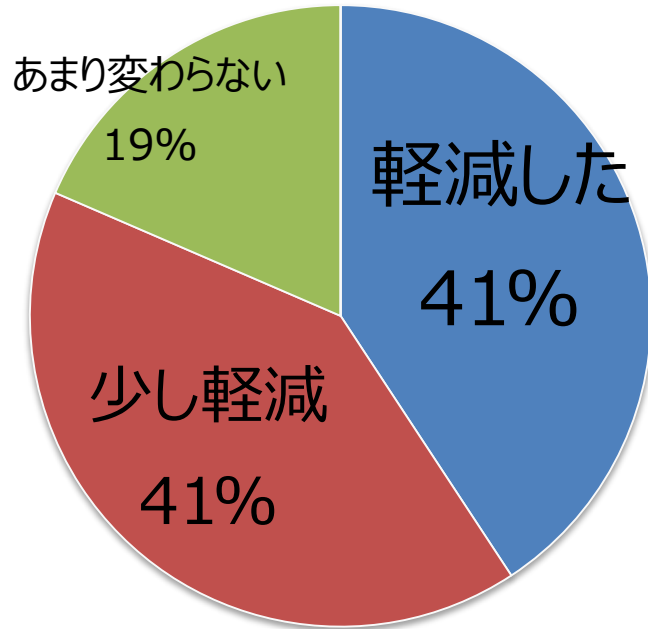
オムツ交換回数での影響は無い事が示唆された。

運用効果② <職員アンケート>

○対象人数 常勤介護職員 32名 回収率85%

○2019年9月にアンケート実施

業務負担について



【肯定意見】

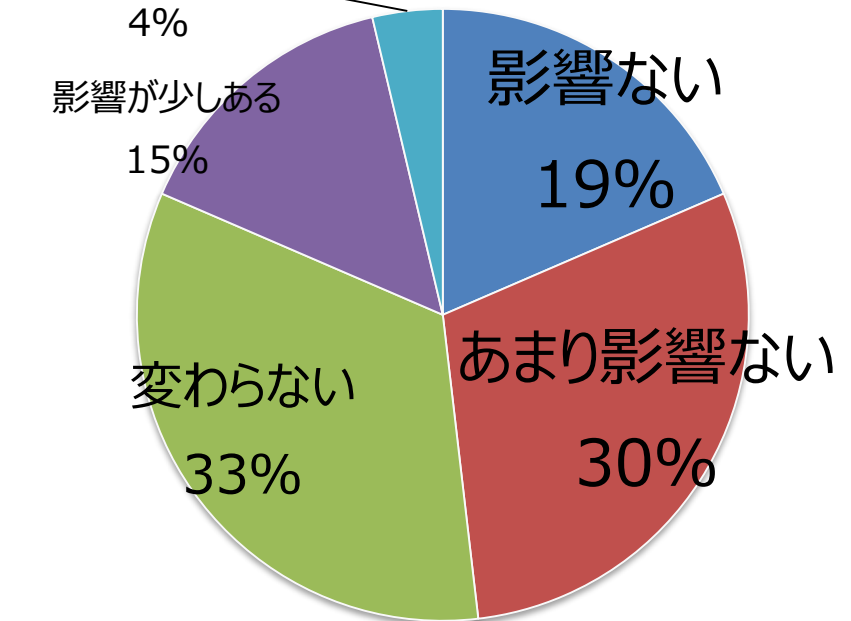
- ✓ 残業が減り他業務に充てる事ができご利用者との交流機会が増えた。
- ✓ 時間にゆとりができた。時間に追われる事がなくなり接遇も向上した。

【否定意見】

- ✓ 職員によりパットの充て方が悪い事がある。
- ✓ パット適正が合っていない事が時にある。

ご利用者への影響

影響があると感じる



【肯定意見】

- ✓ ご利用者の睡眠障害が減った。
- ✓ 不快感からご利用者から交換の訴えがあるかと思ったがなかった。
- ✓ 褥瘡リスクが上がると思ったが上らなかった
- ✓ 時間のゆとりができ、ご利用者にもゆとりができた。

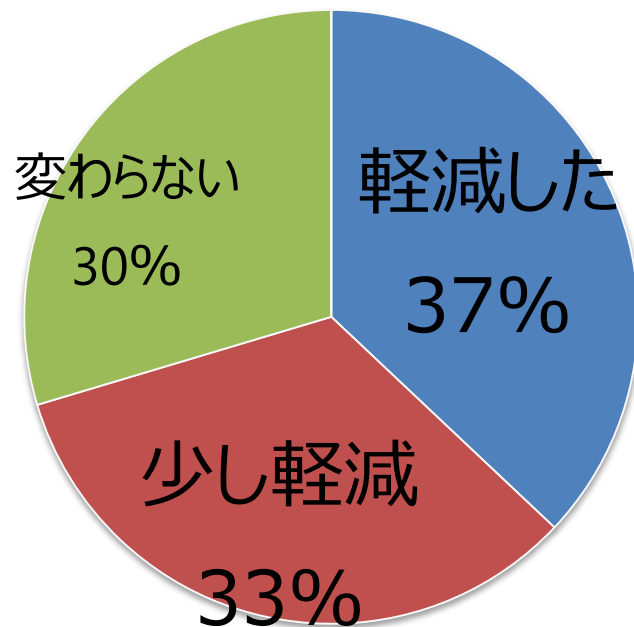
【否定意見】

- ✓ 褥瘡に至らないが慢性的に皮膚状態が悪いご利用者が増えたと感じる。
- ✓ 排便があった際に時間が空いてしまう。

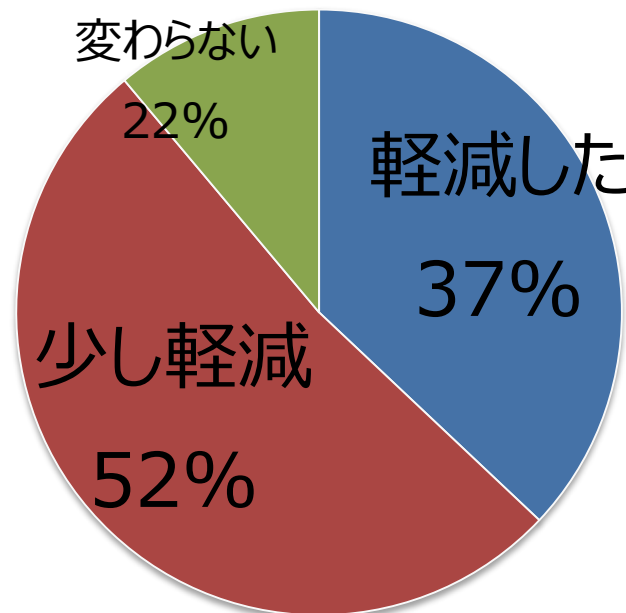
運用効果③ <職員アンケート>

- 対象人数 常勤介護職員 32名 回収率85%
- 2019年9月にアンケート実施

職員身体への負担



夜間の身体的業務負担



【肯定意見】

- ✓ 腰への負担が軽減した。
- ✓ 日中の精神的負担が軽減したと回答したのは45%。夜間の精神的負担が軽減したと回答したのは66%。

【否定意見】

- ✓ 否定意見はないが変わらないとの返答が聞かれた。

＜結果考察＞

- ・昼夜約1時間の業務改善が図れた。
- ・業務の見直しを行う事で職員の定着を図ることができた。
- ・在宅復帰者への生活リハビリ時間を増やす事ができた。
- ・ご利用者からの交換を申し出る訴えはなかった。
- ・夜間の安眠が確保された事で不要な中途覚醒がなくなり事故リスクの低減が図れた。

＜今後の課題＞

- ・スキンケアの充実も図っていけるよう体制を整えていく。
- ・継続して在宅復帰に向けた排泄に関する個別ケアを充実させていけるよう取り組んでいく必要がある。

まとめ

- ご利用者への影響が懸念されていたが、ご利用者に影響を与えるものはなかった。
- 夜間のオムツ交換によるご利用者を起こしてしまう事も減り安眠確保の効果をもたらした。
- 職員が満足すればケアにも良い影響を与えていく事を期待し、今後も様々な業務改善を図りながら、法人理念でもある人と社会を通じて健やかな未来社会を創造する施設運営に繋げていきたいと考える。